

平成30年第3回定例教育委員会

平成30年3月29日(木)午後2時30分

江別市教育庁舎 大会議室

出席者	教育長	月 田 健 二	説明員	教育部長	渡 部 丈 司
	委員	支 部 英 孝		教育部次長	萬 直 樹
	委員	橋 本 幸 子		学校教育支援室長	
	委員	林 大 輔			伊 藤 忠 信
	委員	須 田 壽美江		総務課長	山 崎 正 樹
				学校教育課長	廣 田 修
				教育支援課長	松 井 正 行
				給食センター長	鈴 木 知 幸
				対雁調理場長	鈴 木 正 春
				生涯学習課長	天 野 保 則
				スポーツ課長	三 浦 洋
				情報図書館長	山 岸 博
				郷土資料館長	榎 田 智 幸
				郷土資料館主幹	兼 平 一 志
			記録員	総務課総務係長	嶋 中 健 一
			傍聴者	なし	

1 報告事項

- (1) 平成30年第1回江別市議会定例会の一般質問について
- (2) 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について

2 審議事項

- (1) 平成30年議案第11号
教職員の事故に対する処分内申について
- (2) 平成30年議案第12号
江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
- (3) 平成30年議案第13号
江別市少年育成委員の委嘱について

3 その他

- 次回教育委員会予定案件について
- 平成30年第4回定例教育委員会の日程について

会 議 録

月田教育長

(開会)

ただいまから、平成30年第3回定例教育委員会を開会いたします。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

会議に先立ち、本日の会議録署名人を、橋本委員にお願いいたします。

議事に入ります前にお諮りしたい事項がございます。

議案第11号の教職員の事故に対する処分内申については、人事案件でありますことから、秘密会による審議を提案するものでございます。

これにご異議ございませんか。

(一同了承)

委員の皆様のご賛同が得られましたので、議案第11号は、秘密会により進行いたします。本件を本日の審議順の最初に行い、秘密会終了後は、その他の説明員入室のため暫時休憩いたします。

その後、配付の会議次第にしたがって進行してまいります。

<秘密会につき会議録省略>

委員会を再開します。議事に入ります。

1の報告事項(1)平成30年第1回江別市議会定例会の一般質問についての報告を求めます。

渡部教育部長をお願いします。

渡部教育部長

平成30年第1回江別市議会定例会の一般質問についてご報告いたします。

教育委員会関係分は、3月6日からの8日までの3日間に、4名の議員から一般質問がありました。

初めに、本間議員から北海道林木育種場旧庁舎の利活用についての質問があり、近年の施設利用者は、年間700人前後で推移しており、平成29年度の利用者は前年度を上回る見込みであること。公募状況は、新たに2件の問合せがあったもののいずれも正規の応募に至らなかったこと。公募要件の見直しについては、今のところ結論には至らず、引き続き検討を進めていくこと。現段階での利活用の見込みについては、PRパンフレットを新たに作成し配布しているものの、交通の利便性やランニングコスト等の理由から申出がないこと。将来的な保存の考え方については、当面、旧庁舎を適切に保存し、公開しての活用を続けながら、より積極的な民間活用等の可能性を探り、後世へ残して行きたいと答弁しております。

また、再質問への答弁では、十分に活用されているかについては、平日の一般開放や現状の利用方法以外の活用は難しく、当面はPRの充実を図っていくこと、平成25年度大学連携調査事業の提案については、ランドマークの活用や散策コースとの活用も含めて現在も検討していること、正規の応募に至らない理由については、建物全体での管理や補修が必要なことや、ランニングコスト、関係法令に基づく多額の改修費用が要因と考えていること。EBRIと同様の金銭的支援については、公募要件の見直しの中で引き続き検討すること。先進事例の調査研究については、民間事業者が全額を負担して回収・活用している事例は見受けられないものの、今後も参考にしていくこと。建築基準法適用除外の条例制定については、先進地の事例も参考に研究していくこと。現在働き掛けを行っている企業については結果待ちであり、引き続き働き掛けを行うほか、公募条件の見直しもできるだけ早く結論を出したいこと。今後の保存の考え方については、民間活用、保全、売却のうち、まずは保存を前提にして幅広く研究していくこと。今後の手順については、適切に保存し一般公開を続けながら、より積極的な民間活用の可能性を検討すると答弁しております。

次に、島田議員から道德教育についての質問があり、道德教育の現状については、小中学校の道德の時間は、学習指導要領に基づく年間35時間であり、道德教育用の教材は、文部科学省が配布している教材である、私たちの道德を基本としていること。教科書検定制度導入後の授業内容については、これまでの基本的な考え方や指導の方向性が変わるも

のではないが、考える道徳、議論する道徳へと道徳教育を充実させる内容になっていること。教科への位置付けにより、新たに評価が導入されること、教育委員会としては、道徳教育の一層の充実が図られるよう対応していくと答弁しております。

次に、裏議員から学校施設の防災・減災対策の強化についての質問があり、国の補助制度を活用して学校施設の避難所機能を強化することについては、本市においても、この補助事業によりトイレ改修や暖房設備改修等の大規模改造や耐震化工事、施設・設備改修を行ってきたこと。公衆無線LANは、過去の災害時の状況を踏まえると、情報収集や連絡手段として活用できると認識していること。今次の国の補正予算でも、小中学校3校の暖房設備改修について、補助内定の連絡を受けていること。今後も学校施設の整備に併せ、国の補助制度を活用するとともに、避難所機能の充実についても配慮していくと答弁しております。

次に干場議員からは、中学校における通級指導教室についてほか1件の質問があり、中学校における通級指導教室の市の基本的な考え方については、有効な教育形態の一つと認識しており、保護者からの開設要望もあることから、通級指導教員の加配配置基準である対象生徒数10人を継続的に満たすことができれば、開設に向けた取り組みも可能であること。障害者差別解消法における合理的配慮の認識については、障がいのある子供がほかの子供と平等に教育を受ける権利を享有・行使できるよう、必要かつ合理的な配慮を行うことが必要であると認識しており、通級による指導もその一環であると考えていること。小中学校の保護者へのアンケート調査結果については、通わせたいという回答が保護者23名からあった一方で、通わせたいが難しいという回答も保護者17名からあったこと。回答率が5割前後で、対象者全員の意向を反映したものとなっていないことから、改めて詳細な意向調査を行うなど希望人数の把握に努めていくこと。通級指導教室を設置する考えについては、希望人数の把握に努めるとともに、施設面の整備や運営方法など、設置の条件について引き続き検討していくと答弁しております。

次に、虐待や暴力から子供を守る取り組みについての質問があり、未然に防ぐための教育については、児童虐待防止推進月間に、市では、家庭児童対策地域協議会の構成団体の職員を対象として、児童虐待防止に係る研修会を開催するとともに、教育委員会では、北海道教育委員会作成のパンフレットを保護者や教職員に配付しているほか、中央児童相談所主催の児童虐待防止講演会への参加案内など、教職員に対して児童虐待の防止に向けた早期発見・早期対応への意識啓発を図っていること。CAPプログラムの効果については、児童虐待の防止策の一つと考えられるが、虐待防止に向けてどのような取り組みを進めていくことが効果的なのか、学校や関係機関と相談していくこと。保護者の取り組みを生かした今後の取り組みについては、保護者が自ら取り組むCAPプログラムも参考にしながら、虐待や暴力から子供を守る取り組みを着実に進めていくと答弁しております。

また、再答弁への答弁では、小中学校の保護者へのアンケート調査については、回答率が5割前後と低く、対象者全員の意向を反映していないことから、今後は改めて詳細な意向調査を継続的に行うなど、希望人数の把握に努めていくこと。通級指導教室に通っていた児童が中学校に進学したときの具体的な支援策については、基本的な情報のほか、保護者の同意の下でこれまでの支援内容も引継ぎしており、その子の特性に応じた支援が受けられるよう配慮しており、教育相談があった場合は、特別支援教育専門家チームを活用し、必要な支援を行っていることと答弁しております。

以上であります。

月田教育長

ただいま報告のありました、平成30年第1回江別市議会定例会の一般質問について、質問等がございましたらお受けします。

須田委員

中学校の通級指導教室のアンケートの回答率が5割に満たないということなのですが、この原因はどこにあるとお考えでしょうか。

松井教育支援課長

アンケートは2回行っております。実施時期が2月と3月の春休み中であったことから回答率が低かったと考えております。

渡部教育部長

実施時期が適当かどうかという考え方のほかに、中学校の通級指導教室への保護者の関心の面で、もしかすると希望がない方からは回答がなかったとも考えられます。2回実施して5割前後というのは回答率としては低いものですから、今後の対応を計画するために

<p>須田委員 松井教育支援 課長 月田教育長</p>	<p>は正確な数字も必要なので、改めて回答率の上昇に向けた取り組みをしながら、詳細な調査をしなければならないと認識しています。</p> <p>CAPのことで、江別市にもCAPのセンターのようなものはあるのでしょうか。そのようなセンターが存在することは確認していません。</p> <p>通級指導教室は、授業が行われた後に行くことになるので、中学校の場合は授業時間が長いものですから、終了がかなり遅くなります。そのため、負担に感じる親もかなりいるのではないかと思います。</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>次に報告事項(2)平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要についての報告を求めます。</p> <p>廣田学校教育課長お願いします。</p>
<p>廣田学校教育 課長</p>	<p>報告事項(2)平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要についてご説明いたします。</p> <p>平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、スポーツ庁の実施要領に基づき、4月から7月に掛けて各学校において実施されました。平成30年2月にスポーツ庁から江別市教育委員会に集計結果が送付され、その結果の分析が終わりまりましたのでご報告するものです。</p> <p>資料の1ページをご覧ください。</p> <p>調査の概要については、記載のとおりです。</p> <p>次に、3ページをご覧ください。体格と肥満度に関する調査の結果です。</p> <p>一番上の四角で囲まれた部分は調査結果の概要を、中ほどの表は男子のデータを、下段の表は女子のデータをそれぞれ記載しております。データについては、今年度の江別市の数値と、全国平均値50.0に対する相対的な位置を示すT得点を掲載したほか、全国、全道の数値や、江別市の前年度の数値を参考に併記しております。3ページが小学校、4ページが中学校の結果となります。</p> <p>小学校では、身長は、男子・女子ともに全国平均とほぼ同程度であり、体重は、男子・女子ともに全国平均をやや上回っております。肥満傾向については、女子は、中等度、軽度肥満がやや上回っております。中学校では、身長は、男子が全国平均をやや上回っており、女子がほぼ同程度、体重は、男子・女子ともに全国平均とほぼ同程度です。肥満傾向については、前年度との比較で男子の肥満傾向が解消されています。</p> <p>次に実技検査の結果について、5ページから8ページに掛けて記載しております。</p> <p>5ページをご覧ください。</p> <p>一番上の四角で囲まれた部分は調査結果の概要を、その下の表は各種目の成績とその点数を合計した体力合計点などのデータを、その下の縦棒のグラフは各種目のT得点を、その下の横棒のグラフは良いほうから順にAからEまで5段階で評定した体力の総合評価を表しています。</p> <p>江別市の結果についてですが、小学校では、男子・女子ともに握力は全国平均を上回り、男子・女子の50メートル走と女子の20メートルシャトルランが全国平均を下回りました。</p> <p>男子の体力合計点のT得点は49.1で、全国平均とほぼ同程度、女子の体力合計点のT得点は48.6で、全国平均と比較してやや下回っているとなりました。</p> <p>中学校では、男子・女子ともに握力は全国平均を上回り、持久走はやや上回りました。男子・女子ともに50メートル走は全国平均をやや下回り、女子では、20メートルシャトルランが全国平均を下回りました。男子の体力合計点のT得点は50.6で、全国平均とほぼ同程度、女子の体力合計点のT得点は49.7で、全国平均とほぼ同程度となりました。</p> <p>前年度と比較しますと、男子では9種目中3種目で上回り、女子では、6種目で上回り、体力合計点のT得点でも、男子・女子ともに記録が伸びています。</p> <p>次に、9ページから12ページは、児童生徒質問紙調査の結果です。</p>

<p>月田教育長</p> <p>橋本委員</p> <p>廣田学校教育課長</p> <p>須田委員</p> <p>廣田学校教育課長</p>	<p>9ページから10ページには小学校、11ページから12ページには中学校に対する質問紙調査の結果を記載しております。左側に男子のグラフ、右側に女子のグラフを配置しております。</p> <p>運動習慣の状況については、運動が好き、又はやや好きと回答した児童生徒の割合は、小学校では、男子は全国平均を上回り、女子はほぼ同程度となりました。中学校では、男子は全国平均をやや上回り、女子はやや下回りました。</p> <p>体育の授業については、授業が楽しい、又はやや楽しいと回答した児童生徒の割合は、小学校では、男子・女子ともに全国平均をやや下回っていますが、ほぼ9割前後の児童が、体育の授業は楽しいと回答しております。中学校では、男子は全国平均をやや上回っており、女子は全国平均とほぼ同程度で、男子は9割以上、女子は8割以上の生徒が、保健体育の授業は楽しいと回答しております。</p> <p>次に、13ページから14ページは、学校質問紙調査の結果です。</p> <p>左側に小学校のグラフ、右側に中学校のグラフを配置しております。</p> <p>体力の向上に関しては、体力・運動能力向上の目標設定をしている学校の割合や、授業以外で取り組みを行っている学校の割合は、小中学校ともに全国平均を上回りました。また、授業を振り返る活動をいつも取り入れている、又は大体取り入れていると回答した学校の割合についても、小中学校ともに全国平均を上回りました。</p> <p>また、新体力テストの実施学年の割合は、全ての学年で全国平均を上回りました。</p> <p>続いて、最後のページをご覧ください。</p> <p>この調査を基に、江別市体力改善支援プランとしてまとめたものです。調査の結果、明らかになった課題については、先ほどの調査結果でご説明したとおりですが、イの実技にありますように、前年度との比較では、中学校女子では6種目で記録が向上しており、各学校の取り組みによる成果が現れてきていると考えられます。</p> <p>50メートル走では、小中学校男子・女子ともに全国平均をやや下回っている、又は下回っており、20メートルシャトルランも小中学校女子で、全国平均を下回っていることから、今後も引き続き、走力・持久力を高める運動に力を入れる必要があります。</p> <p>ウの児童生徒質問紙では、1週間の総運動時間について中学校男子・女子ともに全国平均をやや下回っていること、家庭における運動に対する働き掛けが、小中学校男子・女子ともに全国平均をやや下回っていること、体育の授業における目標の振り返りが、学校の認識と児童生徒の意識に差が生じていることなどが課題となっております。</p> <p>資料の下段、左側は課題解決に向けた学校の取り組みであり、体力改善プランの作成による新体力テストの全学年実施や体育科の授業改善等に取り組む必要があると考えております。</p> <p>右側が、学校に対する教育委員会の支援であり、道教委のどさん子元気アップチャレンジの啓発・表彰や、教職員の指導力向上に向けた各種研修会の実施、北翔大学と連携した各種の取り組みなどを進めていきたいと考えております。</p> <p>なお、この調査結果および体力改善支援プランについては、各学校に情報提供を行い、今後の体力向上の取り組みに役立てていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>ただいま報告のありました平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について、質問等がございましたらお受けします。</p> <p>少しずつ体力が向上しているのかなという印象で、喜ばしいことと思います。前に、体育専科教員が配置された学校については、特に上昇が目覚ましいという話を伺っていたと思いますが、今、体育専科教員は何名いて、どのような形で学校を回っているのかを教えてくださいませんか。</p> <p>体育専科教員につきましては、加配ということで中央小学校に1名配置されております。今年度で2年目を迎えています。</p> <p>今の件に付随して伺います。中央小学校に効果が出ているのかは分かりますか。</p> <p>体育専科教員が配置されている中央小学校では、実際の授業として準備運動で縄跳びに取り組んでいるほか、鬼遊びやスキップなど、楽しみながら取り組める運動や走る動きの質を高める運動を授業に取り入れています。</p>
--	---

橋本委員	<p>今年度の中央小学校の体力調査の結果は、男子では9種目中6種目で、女子で全種目で全国平均を上回っています。</p> <p>3年ごとに体育専科教員の方が回っているように聞いたのですが、ほかの学校に対してはどのような指導をいただいているのでしょうか。</p>
廣田学校教育課長	<p>先ほど、橋本委員からも結果がだんだん伸びているというお話をいただきましたが、各小学校では縄跳びに取り組んでいるほか、体育の授業にランニングなどの体力を高める運動を取り入れています。中学校でも、体育の授業の初めに走るなどの補強運動を各学校で取り入れていまして、体育の授業改善といったものが進んでいると思います。こうした各学校での取り組みが、確実に成果に表れてきていると考えています。</p> <p>体育専科教員については、平成30年度で中央小学校が配置して3年目になりますので、その際は教職員研修という形で先生方の講師になっていただいて、各学校への普及ができるよう考えているところです。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>体育専科教員については、教員の加配措置でありまして、以前は大麻小学校に配置されておりました。原則的には単年度配置なのですが、継続しても3年までということになっています。大麻小学校への配置が終わりまして、2年前に中央小学校に配置されたということになります。</p> <p>今、学校教育課長が説明したように、各学校を巡回するというのではなくて、配置された学校の中で体育専科ということで1年生から6年生までの体育の授業に専門で入ることになります。担任の先生がT2のような形で補助に付いたり、たまに入れ替わってみたりということで、体育の授業の冒頭でそれぞれの学校の子供たちの状況に合わせて、走る運動を中心にしたり、縄跳びをやってみたり、専科教員が指導するということです。</p> <p>配置された1年目は先生自体も手探りですが、3年目になりますので、中央小学校を会場として授業の取り組みを各学校の先生方に見に来てもらうという形で普及していくことを考えております。</p>
橋本委員	<p>先生の負担も大きいと思いますが、一つの学校だけではなく全部の学校が全体的に上がっていかばいいと思いますので、そういった研修が多く行われるとより上がるのではないかと思います。</p>
月田教育長 林委員	<p>ほかに質問等はございますか。</p> <p>同じような話かもしれませんが、北翔大学と連携した体力向上の取り組みをされていると思いますが、まだ日が浅いので効果測定というのはいかないかもしれませんが、少しずつ変わってきているのでしょうか。</p>
廣田学校教育課長	<p>北翔大学とは体力向上ということで、走り方教室ですとか、朝運動プログラムなどに取り組んでいます。朝運動プログラムについては、楽しんで運動するというを中心に体を動かす取り組みを進めています。児童生徒質問紙を見ますと、運動が好きか、体育の授業が楽しいかという項目の割合は高いので、過去からの積み上げかもしれませんが、そういうところにも影響は出ているのかなと思います。</p> <p>今年度は走りに課題があるということで、速くなる走り方ということで、大学の方でも走り方のポイントを記載したポスターを作成して、各学校に配布して活用する取り組みも行っています。</p>
月田教育長	<p>補足しますと、全道的には石狩管内は低い傾向にありました。檜山管内あたりが高かったようですが、石狩管内の中でも全国平均に近い結果を出しています。非常に各学校とも頑張っているという印象です。大学の協力ですとか、大麻小学校に体育専科教員が配置されていたときも、各学校から集まって授業を見学するなどしていましたので、それらを各学校に持ち帰って、同じようなことをやっていたいただいているのが成果につながってきているのではと思います。こうしたことを、地道に続けていけばいいと考えています。</p> <p>それでは、ほかに質問等はございますか。</p> <p>(質疑終了)</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>続いて、2の審議事項に入ります。</p> <p>審議事項(2)平成30年議案第12号 江別市立学校管理規則の一部を改正する規則</p>

廣田学校教育課長	<p>の制定についての説明を求めます。 廣田学校教育課長お願いします。 平成30年議案第12号 江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について、ご説明いたします。 1ページをご覧ください。 1の改正理由であります(1)北海道学校職員の給与に関する条例の一部改正による市町村立小中学校の事務職員及び学校栄養職員の職務区分の見直しに伴い、北海道立学校管理規則が一部改正されたことから、その取扱いに準じて、所要の改正を行うものであります。 (2)教職員の勤務状況等を適切に把握し、北海道が負担する教職員給与費が適正に執行されるよう、現行の道立学校における文書編集保存分類表に準じ、文書保存に係る規定を追加するものであります。 (3)北海道立学校職員服務規程の一部改正により、これまで書面で行っていた外勤命令を口頭で行うよう改められたことから、その取扱いに準じて、所要の改正を行うものであります。 (4)として、第5条において字句の整備を行っております。 2の改正規則の内容につきましては、2ページから6ページに記載のとおりであります。詳しくは、新旧対照表に基づき説明いたしますので、4ページをご覧ください。 ページの左側が改正前、右側が改正後であります。下線のある部分が、改正箇所を示しております。 主な改正内容についてですが、第6条では、事務職員及び学校栄養職員の職務区分の見直しに伴い、専門事務主任、専門員、指導専門員を新たに第6条の2から4まで追加いたします。 次に、5ページをご覧ください。 第13条では、現行の道立学校における文書編集保存分類表に準じて、新たに(5)から(15)までについて、表簿と保存期間を追加いたします。第41条では、外勤の命令は、これまで外勤簿にて行っておりましたが、改正後は口頭により行うこととなります。 次の6ページにあります外勤簿の様式は、削除いたします。 また、3ページの附則において、この規則は平成30年4月1日から施行することとしております。</p>
月田教育長	<p>説明は以上です。ご審議のほどよろしく願いいたします。 ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けいたします。 私から一つ伺います。 5ページの右側にある第5号から第16号までの5年保存というのは、今までも5年保存だったのでしょうか。</p>
廣田学校教育課長	<p>過去に行われた教職員の勤務実態調査のときに、保存年限が明確になっていないものがあり、江別市の場合は江別市文書運行管理規程等に準じて取り扱っていて、全部5年ということではなく3年のものもありました。今回は、北海道に準じるということで、改正をさせていただくものです。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>補足します。 その勤務実態調査後に、北海道教育委員会からは5年に延ばすということで、各市町村教委も直してくださいという通知が来ていました。江別市教育委員会としては、過去に各学校に5年保存としてくださいという通知を出していたのですが、今回は、道教委からも明文化してほしいということがあり、学校管理規則に改めて明記したということです。 学校としても管理規則に載っていれば、はっきりと5年ということが分かりますので、そういう意味もあり、今回の改正となったものであります。</p>
月田教育長 須田委員	<p>ほかに質問等はございますか。 第41条なのですが、外勤命令が口頭で大丈夫ということになったら、誰がどこに行ったなどの記録は残らないということでしょうか。</p>
廣田学校教育課長	<p>あくまでも口頭で校長に事前承認をもらうので、書面での記録は一切残らないということになります。</p>

月田教育長	<p>ほかに質問等はございますか。 (質疑終了) それでは、平成30年議案第12号 江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定についてを承認することにご異議ありませんか。 (一同了承) それでは、そのように承認いたします。 次に、(3)平成30年議案第13号 江別市少年育成委員の委嘱についての説明を求めます。 松井教育支援課長をお願いします。</p>
松井教育支援課長	<p>議案第13号 江別市少年育成委員の委嘱についてご説明いたします。 少年の非行防止等のための街頭巡回指導に当たっている江別市少年育成委員につきましては、2年間の任期で委嘱しているところですが、本年3月31日で任期が満了することから、江別市少年指導センター規則第3条の規定により、新委員の選考事務を進めてきました。 今回委嘱しようとする委員は、議案の候補者名簿に記載のとおり計31名で、任期は平成30年4月1日から平成32年3月31日までとなっております。 以上です。</p>
月田教育長 橋本委員 松井教育支援課長 渡部教育部長	<p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けいたします。 委員の人数は決まっているのでしょうか。 規則上での取り決めはございません。</p>
橋本委員	<p>補足しますと、3人チームで4グループということで、一つの地区に12名程度になれば理想的と考えています。 大変長い間、委員になっている方も多く、年齢も毎年上がっていくものですから、人数が多ければ巡回の割り当ても減るといったように、負担が減るのではないかと考えたところですが、増やせるものであれば、できるだけ協力していただいて、続けていただいている方の負担になるべくならないようにしていけたらいいかなと思います。</p>
渡部教育部長	<p>本当に長い間従事していただいている方もいて、高齢でも青少年の育成のためにご尽力いただいているところですが、教育委員会としては、今後は少し範囲を広げて協力していただける方を募るなど、随時補充していきたいと考えています。</p>
月田教育長 須田委員 松井教育支援課長	<p>ほかに質問等はございますか。 年間、どのぐらい巡回しているのでしょうか。 月で言いますと7回程度巡回していただいています。主に平日の放課後、夏季であれば午後4時から午後6時まで、冬季であれば午後5時から午後7時まで、公園ですとか、公共施設、スーパーなどの商業施設を、江別、野幌、大麻のそれぞれで分担して巡回していただいています。</p>
須田委員 伊藤学校教育支援室長 須田委員 支部委員	<p>本当にすごいですね。頭が下がります。 3人一組で回りますので、12人で4サイクルになります。月の7回を4サイクルで回していくことになります。 少し安心しました。 それでも結構頻度は高いですね。若い候補に委員になっていただくのも難しいのかなと思いますが、育成という部分で、祖父母の世代に担っていただくことも大事なことです。いろいろな世代の人がいた方がいいのかなと思います。難しいところかなと思いますが、バランスの良い配置をされてはどうでしょうか。</p>
橋本委員	<p>やっけていただいているのは、有り難いことなのですが、いろいろと心配な面も出てくるかもしれませんね。</p>
松井教育支援課長 月田教育長	<p>委員の平均年齢は、72.7歳と高齢となっております。今後は、現委員からの声掛けのほか、多くの人材を確保していきたいと考えております。 ほかに質問等はございますか。 (質疑終了) それでは、平成30年議案第13号 江別市少年育成委員の委嘱についてを承認するこ</p>

山崎総務課長	<p>とにご異議ありませんか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>それでは、そのように承認いたします。</p> <p>続いて、3のその他、次回教育委員会予定案件及び日程について、説明願います。</p> <p>山崎総務課長お願いします。</p> <p>次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、平成30年度学校選択制にかかる入学状況について、審議事項として、第1地区教科用図書採択教育委員会協議会委員の選出についてなどを予定しております。</p>
月田教育長	<p>また、次回の定例教育委員会の日程でございますが、4月25日水曜日午後2時30分からと考えておりますが、各委員のご都合等はいかがでしょうか。</p> <p>ただいまありましたように、次回の定例教育委員会は4月25日水曜日午後2時30分からということで、皆様よろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>以上をもちまして、第3回定例教育委員会を終了いたします。</p> <p>(閉会)</p>

終了 午後3時25分

署名人(教育長) 月田 健二

署 名 人 橋本 幸子